



●地域作りについて学ぶ



●フルーツの良さについて学ぶ

## 農業を支える女性達を 応援します!

### 「峡東地域普及センター」

峡東地域は果樹の主産地であり、山梨県農業の中核を担う地域です。

しかし、農業情勢は他地域と同様に、高齢化や兼業化がすすみ、耕作放棄地も増加する傾向にあります。

このような中で、農業には多様な担い手が求められ、農村女性にもその一翼として大きな期待がかかっています。

女性の持つ能力や感性は、生産から収穫・加工・販売までの多くの場面で活かすことが可能です。

今年は、1回目には峡東地域ならではの果物に関わる、そのすぐれた機能性を学び、2回目には、NGO団体の代表者から、環境対策や地域作りについて話を伺い、その活動のためには、人と人との関係作りが必要ということを学習しました。

今後も農村女性の支援のためにグループの運営や、起業活動についても学習し、地域で活躍できる女性を育てていきたいと考えています。



●ニンニク栽培ほ場



●ナス現地研修会



●ニンニク収穫



●ナス巡回指導



●直売所での豊富な品揃えの様子

## 地産地消への 取り組みを支援

### 「峡南地域普及センター」

峡南各地では地産地消への取り組みが広がっており、消費者に安全・安心な農産物を届けたいと、直売所には、地元の農家から新鮮な農産物が運びこまれています。

これまで直売所では、季節による品揃えの格差が大きく、時期によっては、販売される品目数が極めて少なくなるといったこともみられており、生産者からは「足を運んでくる消費者に満足していただけるよう、豊富な品揃えを図りたい。」との声があがっていました。

そこで、峡南地域普及センターでは、生産者の方々と検討を重ね、地域で栽培しやすく消費者ニーズに合った品目の導入や、簡易被覆資材を利用した周年栽培技術の普及を図っています。

それぞれの地域では、新たな品目に次々に挑戦する農家が多く見られるようになり、直売所の活性化につながっています。



●新規野菜の導入研修会の様子

## 建設業者と連携した ニンニク産地づくり (都留市朝日曾雌地区)

### 「富士・東部地域普及センター」

ニンニクは、秋に植え付け、翌年の初夏に収穫します。この時期はとくに労働力が集中し、労働力の投下量が生産規模の決定要因となっています。

組合員の高齢化や後継者不足の問題を抱える曾雌にんにく生産組合では、健全な組合活動の存続と産地維持のためには新たな人材確保が急務の課題となっていました。

ニンニク生産の農繁期は、建設業においては労力的にゆとりがあることから、建設業者との連携に注目し、平成21年秋の植え付けに向けて2社が組合員として参画することになりました。栽培面積は、これまでの40aから遊休農地を活用して120aに拡大することになっています。

## ナスの減化学 肥料栽培の普及 「総合技術普及センター」

JA西八代野菜部会ナス部の生産者は、全員がエコファーマーの認定を受け、環境保全型農業に取り組んでいます。

総合技術普及センターでは、昨年度、化学肥料の使用量を30%削減した施肥体系について現地実証を行いました。今年度、実証結果に基づき施肥基準を見直し、講習会において減化学肥料栽培の導入を提案したところ、部会員全員で取り組むこととなりました。

また、ナスの栽培期間中には、現地研修会や個別巡回により施肥指導を行った結果、約半数の生産者が地域の慣行栽培に比べて化学肥料を30%以上削減することができました。

今後も、関係機関と連携し、化学肥料削減の取組が普及・定着するように支援していきます。